

# 道<sup>みち</sup>

昭和29年8月1日に幡豆郡豊坂村と合併し、  
今の幸田町が生まれました。

そして、来年の平成26年8月1日には  
合併60周年を迎えます。

人に例えるなら、赤ちゃなが立派な大人へと成長し、  
成熟の年齢を迎えている。

それが60年という歳月です。

幸田町もいざ60年の間で大きく発展し、  
成長を遂げました。

60回目の誕生日まじい、おめでとう一年。

もう一度、

私たちが「なるほど」幸田町を歩くと道が  
見えてくる。うんとまじい。

いざ60年を振り返ると、

豊か自然と、

豊か自然と、

来たる節目に向けて

いざ60年を振り返ると、

29	27	30	33	34	35	36	37	39	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	
4月1日	1月1日	8月1日	4月30日	7月14日	9月26日	10月22日	3月19日	8月1日	9月	3月20日	8月12日	11月27日	3月20日	5月	8月1日	4月1日	7月7日	1月13日	3月15日	11月10日

町制施行、幸田町誕生 1  
 福豆郡豊坂村長・議長から正式に合併の申込み  
 豊坂村と幸田町が合併し、新生幸田町の誕生  
 初代町長に本多伴吉氏就任  
 第1回町議会議員選挙  
 三笠宮殿下をお迎えし、社会体育研究発表会開催  
 町の一部が三河湾国定公園に指定される  
 2代目町長に本田桂氏就任  
 「広報幸田」第1号発刊 2  
 幸田町章決定  
 幸田町歌・幸田音頭発表  
 伊勢湾台風が襲来し、大被害を受ける 3  
 幸田町全域が都市計画区域指定を受ける  
 東海道新幹線工事が町内で始まる  
 本町初の鉄筋コンクリート校舎が  
 幸田中学校に完成  
 町営プールオープン（現在の保健センターの位置） 4  
 幸田町の軍橋を東京へ初出荷  
 有線放送電話開通（2、34戸）  
 3代目町長に加藤泉氏就任  
 三ヶ根駅開業 5  
 幸田小学校前に町内第1号の横断歩道橋完成  
 第1回幸田町農業振興大会（後の産業まつり）  
 幸田駅前、町内第1号の信号機設置  
 国道248号バイパスが町内全線開通 6  
 幸田駅西地区工業団地が完成  
 人口2万人突破  
 都市計画法の線引きにより「市街化区域」と  
 「市街化調整区域」が決定  
 三河ハイウェイオープン 7  
 幸田町上水道通水式  
 県立幸田高等学校開校  
 坂崎地区工業団地完成  
 町の木やまざくら町の花つばき制定  
 三河湾スカイライン全線開通  
 台風8号（七夕豪雨）で大被害を受ける  
 4代目町長に神本徳市氏就任  
 町政モニター制度発足  
 旧消防庁舎完成  
 最初の土地区画整理事業（深澤）が始まる  
 幸田町消防本部・消防署発足  
 旧学校給食センター完成



## 幸田町歴史年表

21	20	19	18	17	16	15	14	12	11	10	9																					
7月30日	7月22日	5月14日	4月4日	10月17日	9月11日	8月29日	3月25日	3月6日	10月1日	3月26日	3月3日	1月	9月22日	7月1日	4月21日	10月1日	9月1日	11月14日	11月18日	10月1日	9月17日	10月11日	10月26日	4月1日	10月1日	9月5日	12月5日	8月30日	7月2日	5月1日	10月1日	8月16日





第1回新春風あげ大会(後の風揚げまつり)  
 郷土資料館オープン  
 イネミスソウムシが幸田を襲撃  
 駅前通りで第1回歩行者天国(後の庄左まつり)  
 町立文庫オープン  
 老人福祉センターオープン  
 5代目町長に磯部光雄氏就任  
 第1回新春駅伝大会  
 人口25,000人突破  
 長嶺筆跡団地完成  
 中央小学校開校  
 勤労者体育センターオープン  
 町民憲章制定  
 南部中学校開校  
 幸田文化広場・さくら会館オープン<sup>8</sup>  
 幸田中学校ソフトボール部全国大会優勝<sup>9</sup>  
 保健センターオープン  
 役場新庁舎オープン  
 防災行政無線の使用開始  
 中部地区工業団地完成  
 6代目町長に大浦猶之氏就任  
 とほね運動場完成  
 錦田架道橋(通称:錦田ガード)開通  
 「健康の町」宣言  
 桜まつり開催(後のしんじょうまつり)  
 北部中学校開校  
 第1回幸田町中学生海外派遣団出発  
 (アメリカ西海岸)  
 30階級はしんに付消防自動車導入  
 人口3万人突破  
 高齢者生きがいセンター完成  
 長嶺地区工業団地完成  
 夏期遊業ラジオ体操(NHK)生中継  
 つとむの家完成  
 女性交通指導員誕生  
 「ハッピーネス・ヒル・幸田」名称発表  
 幸田の万歳(三河万歳)が重要無形文化財  
 (国指定)となる<sup>10</sup>  
 図書館オープン  
 三ヶ区が芦谷区に合併し22行政区となる  
 福祉巡回バス運行開始  
 町民会館オープン<sup>11</sup>

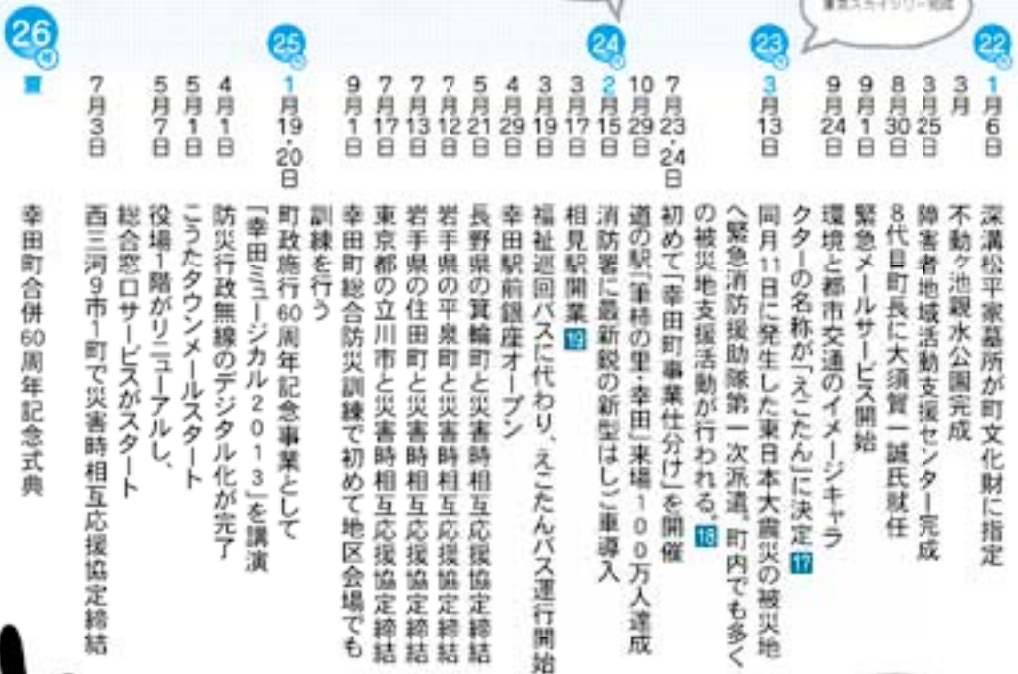


いままでの発展のために、

先代が尽力してつくった

# 道のり

を幸田町は「幸田らしさ」を大切に



なあってほしいな



# 未来への道しるべ

約60年という歳月を一步一步、歩んできた幸田町。これから先、将来にわたり皆さまが「住んで良かった」「住んでみたい」「ずっと住み続けたい」と思えるようなまちを目指しています。

昭和45年に策定した「幸田町総合計画」では「人と自然と産業の調和」を基本理念として掲げ、自然・人・多様な産業が調和する豊かなまちを目指してきました。その後、時代の変化に合わせて、平成18年に定めた第5次総合計画では、「夢のある心のかよう活力あるまち」を町の将来像に掲げ、次の

① 3駅プラス1（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅、ハッピーネス・ヒル・幸田）を都市核とした、コンパクトでまとまりのある市街地の形成。

③ 農業・工業・商業など、まちがこれまでに培ってきた産業を最大限に活かしつつ、次世代産業の誘致や町内外から多くの人が集い楽しむ拠点の形成。

④ 隣り合う住民同士が互いの生活を尊重し、健康を思いやり、助け合うコミュニティの形成。健康や生きがいを守り育てる環境の整備。

⑤ 町民のゆとりや生きがいを支える文化活動、生涯学習の充実を目指しながら、歴史文化、子どもの希望や思いやりの心を大切に育てる学校教育。

⑥ 地域自治の主役である町民の指針を活用し、広報広聴活動の充実、町民の参加・参画の機会の拡大。町民と共に学び、考え、行動する職員の育成。計画的な行財政運営。

② 里山の森や川、農地やため池などの自然・生態系を大切に。地球の限りある資源を大切に活用する、資源循環型社会の形成による快適で美しい環境づくり。

大きな6項目の実現に向けて取り組んできました。現在も、町民と行政が協働し、継続可能なまちづくりを進めています。

平成28年には新しく、第6次総合計画を掲げ、さらなる安全・安心な住み良いまちづくりを目指し、歩み続けます。

子どもたちに  
聞いてみました！  
10年後、  
20年後は…

こんな幸田町に

## 幸田町の概要



あいちけんめかたくんこうたちょう  
愛知県額田郡幸田町

(平成25年7月1日現在)



総人口 ▶ 38,924人  
内 男 ▶ 19,589人  
内 女 ▶ 19,335人  
世帯数 ▶ 13,601戸  
◀ 役場庁舎

### 位置・気候風土

愛知県の中南部に位置し、中部圏の中心都市・名古屋市から45km圏内にあり、北は岡崎市、西は西尾市、南東は蒲都市と接しています。東西10.25km、南北10.55kmで、面積は56.78km<sup>2</sup>。東部と南西部に標高100m～400mの丘陵地が続き、広田川を中心に平野が広がっています。

### 町章



幸田町の頭文字「K」を図案化したもので、まちの人々の円満融合と団結を表しています。

### 町の花「つばき」/町の木「やまざくら」



▲つばき

どちらも幸田町の豊かな自然を象徴する植物です。決定の経緯は広報こうた昭和48年10月1日号で、「花」と「木」それぞれ5種類ずつの候補が発表され、1世帯1票として人気投票が行われました。その結果、つばきとやまざくらに決定したことを票数の開示とともに、翌月の広報こうたで発表しました。

60周年の「60メガネ」をかけた「えこたん」を祝う、通りすがりの「オカザえもん」▶

町では、合併60周年に向け、町民の皆さま・町内の企業などに協働・参加していただける、いろいろなイベントを企画中です。  
7月の彦左まつりで開催された「イケメン彦左」に続き、来年の3月には、お子さま向けの合併60周年プレイベントを開催します。  
なお、詳しい内容については、詳細が決まり次第、広報こうたなどでお知らせします。  
問合せ 企画政策課 広報広聴G (内線3003)

合併60周年に向けての取り組み

一緒に盛り上げていきましょう！

